

インドネシア・バリ島 経済視察報告書

2015.7.17(金) ~ 2015.7.22(水)



国際交流委員会(委員長 志摩英和)では、平成27年度の経済視察先を、委員会にてインドネシアのバリ島に決定し、7月17日(金)の4泊6日で視察を行いました。出発に際しては、台風11号による影響で遅れがございましたが、ガルダ・インドネシア航空883便にてバリ島のデンパサールへ向かいました。

今年は、バリ島の観光産業を中心に経済視察を行いました。

バリ島はインドネシアの1万7千の島の一つで、389万人が住んでおり、面積は563万km²で愛知県とほぼ同じ大きさです。インドネシア人のほとんどがイスラム教に対してバリはおよそ90%がヒンドゥー教です。

バリ島の産業は、以前は農業(水田耕作)が伝統的に行われてきましたが、ビーチ・リゾートが開発され、世界的な観光地となつたバリは東南アジア各地のモデルとなつていきます。先進国に比べて物価がかなり低廉であることも人気の要素です。訪れる観光客は日本人が一番多かったのですが、現在はオーストラリア人が多く、バリ島の収入の2/3が観光関連によるものとなっております。バリ島の観光開発は1969年デンパサール国際空港の開港によってマス・ツーリズム向けの大規模開発が始まり、島の南部の海岸を中心に高級リゾートホテルが建築されてきました。現在では高級ブランドのブルガリが経営するホテルや90haもの広大な敷地を有するアヤナリゾートなど世界有数のディスプレイーション・リゾートになっていきます。

今回のバリ視察はそうした世界有数のディスプレイーションリゾートを体験することと、今後日本にも東京オリンピックを始める、インバウンドの外国人のおもてなしをどの様にしていけば良いのかを経験する事が出来たと思います。現在、日本には1500万人の外国人が訪れ、政府は2000万人の観光客を目指しています。先日のある調査では、世界で訪れてみたい国の1番が京都で、2番がバリ島だったそうです。そうした意味でも、インバウンドの外国人をしっかりとホスピタリティの出来る日本にしていかなければいけないと思われました。



プサキ寺院



タマン・アユン寺院

2014年 産業別バリ州域内 総生産		
(単位 100万ルピア)		
産業区分	金額	% (1970年)
農業 漁業	6,011,426	20.7 (66.7%)
採石業	196,471	0.7
製造業	2,610,131	9.0
電気 ガス 水道業	522,533	1.8
通信輸送業	3,275,453	11.3
建設業	1,132,719	3.9
金融業	1,969,622	6.8
商取引 ホテル	8,452,944	29.2 (36.4%) [※]
サービス業	4,815,272	16.6
合計	28,986,595	100

※サービス業も含んだ割合です



レゴンダンス



銀細工視察



キンタマーニ高原



バリコーヒー



バリの棚田



ろうけつ染め